地質学者チャールズ・ダーウィンの時間概念

Time concept of geologist Charles Darwin

矢島 道子 [1]
Michiko Yajima[1]

[1] GUPI
[1] GUPI

2009 年はダーウィン生誕 200 年、『種の起原』出版 150 年を記念としたダーウィン年にあたる。ダーウィン（Charles Darwin 1809-1882）は、一般には、生物の進化を説き、その仕組みを明らかにした人で、生物学者とされている。しかし、地質や化石もよく知っており、地質学者と分類されてもよいのである。これまで、地質学者としてのダーウィンはあまり議論されてこなかった。

2005 年、英国でサンドラ・ハーバート著『チャールズ・ライエル、地質学者』が出版された。地質学史家は諸手をあげてこの著書を大歓迎している。この書には、ダーウィンが使用していたハンマー、クリノメーター、ゴニオメーター、フィールドノート、トリミングした岩石標本等の写真がならび、ダーウィンはいかにも地質学者のように伝わってくる。

私自身は地質学の中の古生物学を研究してきたので、ダーウィン（Charles Darwin 1809-1882）の古生物学者の側面を述べてみたい。特に『種の起原』中のたった 1 枚の図の意味を議論する。